

令和5年度 かほく市立高松小学校 学校評価中間報告（前期アンケート結果・改善策）

重点目標	具体的取組		現状	評価の観点 (評価者の観点)		実現状況の達成度判断基準	評定	3者アンケート結果			結果の 考察	判定	今後の方針 (改善)	学校運営協議会委員のご意見
	★かほく市教育重点項目と関わる項目			評価者	A			A+B						
1 確かな学力と 体力の育成	① 学習規律	学習規律の徹底を図る。 ◇正しい姿勢、ペル学の徹底 ◇ほめと励まし ◇規律の意味の指導	学習ルールの徹底 が必要である。	満足度指標	ほめと励ましを適切に用いて 学習規律を指導しているか。 (低学年)規律の意味を指導し ている。(高学年)	教師アンケートによる肯定的割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	教師	教師①	47.4	94.8	児童A、教 師A・A+B の結果が、 昨年度の同 時期に比べ て5%下 がっている 。	A	「学習の約束5か条」を意識し、掲示を活用し て指導を継続する。特に姿勢に関しては、ど のような姿勢が良いのか、なぜその姿勢が良 いのか保健の面からも指導していく。	
				努力指標	学習のきまりを守って学習し ていますか。	児童アンケートによる肯定的割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	児童	児童⑨	66.7	94.3				
	② 授業力・ 指導力	授業力・指導力の向上★ ◇児童が達成感をもつ授業の 構築 ◇個別指導の充実 ◇主体的に学習に取り組み、深 めるための授業づくり	教材研究を深め、 児童が「わかる・で きる」といった達成 感のある授業を構 築する必要がある 。	努力指標	学習における一人一人の様 子を見取り、対処しているか。	教師アンケートによる肯定的割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	教師	教師②	36.8	100	教師・保護 者のA評価 が高くない ものの、3 者の肯定的 評価の平均 は90%を 超えてお り、昨年度 よりも僅か に上がって いる。	A	児童自身が主体的に学習に取り組むことがで きるよう、個別最適と協働的な学びの一体化 を図る授業を目指す。そのために、児童自身 が学習方法や解決方法を選択できるような 取組を実践していく。	
				満足度指標	お子様は、学校の授業がわか りやすいと言っていますか。	保護者アンケートによる肯定的割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	保護者	保護者⑤	44	89.8				
				満足度指標	授業は分かりやすいですか。	児童アンケートによる肯定的割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	児童	児童④	61.2	95.5				
	③ 学校 研究	授業力・指導力の向上★ ◇全員が理解できるための工夫 ◇再試行させるための工夫 ◇思いを伝え合うことの重視 (カリマネの柱)	研究の重点につ いて共通実践に努 める必要がある。	努力指標	全員が理解できるための工夫 や、児童の再思考につなが る効果的な発問を工夫してい るか。	教師アンケートによる肯定的割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	教師	教師③	26.3	78.9	教師のA評 価は昨年度 より10%上 がっている が、肯定的 評価は 10%下 がっている 。児童の A評価、肯 定的評価は ほぼ同じで ある。	B	研究の重点である全員理解を目指し、学力向 上プランの共通実践に取り組む。職員の取組 状況を周知し、教職員の意識向上を図る。	
				満足度指標	授業中や休み時間に自分の 思いを伝えることができてい ますか？	児童アンケートによる肯定的割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	児童	児童⑥	48	86.8				
	④ ICTの 活用	ICTの活用 ◇一人一台タブレットの効果的 な活用	情報活用能力の育 成が必要である。	努力指標	一人一台のタブレット端末を 授業で効果的に活用しようと しているか。	教師アンケートによる肯定的割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	教師	教師⑥	26.3	84.2	児童の肯定 的評価はほ ぼ変わらない が、教師 の肯定的評 価は20% 以上上がった 。	A	職員研修の充実を目指し、より効果的な実践 を行っていく。研修会での報告会を通して教 師の困り感を解決していく。	
				満足度指標	タブレットを学習に役立てて いますか。	児童アンケートによる肯定的割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	児童	児童⑧	78.4	97.6				
	⑤ 学び の土 台	学びの土台作り ◇基礎基本の定着(話す聴く書 く) ◇言語活動の充実(条件作文、 読み取り新聞)	基本的な学習内容 の定着に差があり、 その定着に努める 必要がある。	努力指標	学びの土台としての共通実践 に取り組んでいるか。 (NEW)	教師アンケートによる肯定的割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	教師	教師⑦	47.4	100	A評価、肯 定的評価が どちらも高 いことから、 共通実 践として取 り組んでい ることを、 児童と教師 が共有でき ている。	A	基本の徹底を目指し、毎月取り組み週間を設 けた。さらに浸透していくように、取り組み状 況の確認や掲示物の活用を行い、向上に努め ていく。	
				努力指標	「高松っ子の話し方・聴き方」 ができていますか。 (NEW)	児童アンケートによる肯定的割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	児童	児童⑪	46.3	89.8				
	⑥ 体力・ 運動 能力	体力・運動能力の向上 ◇体力づくり1校1プラン ◇かけ足・なわとび運動 ◇全校外遊びタイム	児童の健康づくり のため、日常的な 指導や保健・学活 の授業の充実が必 要である。外遊び も含めた1校1プ ラン等の全校的な 取組を更に充実し ていく必要がある。	努力指標	1校1プランを意識した運動 を授業等で取り組んでいる か。	教師アンケートによる肯定的割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	教師	教師⑧	15.4	76.9	教師の1校 1プラン、運 動の工夫に 対する教師 のA評価が 昨年度より もさらに低 くなった。	B	・水泳学習や器械運動の授業では、体育指導 員を招き、器械運動の技能や泳力の向上を 図った ・今後はかけ足・なわとび運動、スポチャレい しかわ(40m走、8の字とび)の取り組みに合 わせて、取り組みの内容や楽しく運動できる ようにする方法を職員に周知し、体力・運動能 力の向上に努めていく	
				努力指標	体を動かす遊びや運動をして いますか。	児童アンケートによる肯定的割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	児童	児童⑩	71.9	92.3				
				努力指標	児童が楽しく運動できるよう 活動を工夫して指導している か。	教師アンケートによる肯定的割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	教師	教師⑨	25	83.3				

2	心の教育の推進	⑦挨拶・表現 ◇場に合ったコミュニケーション (家庭・地域・学校)	人間関係づくりの基本であるあいさつを学校内外で進めていく必要がある。	満足度指標 児童は場に合った挨拶を行っているか。	教師アンケートによる肯定的割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	教師	教師⑩	14.3	95.3	3者の肯定的評価は昨年並みであるが、A評価が約5%ずつ上がっている。	A	・よいあいさつをできている子を褒めたり、放送や集会で全校に紹介したりする。そうすることで、よいモデルを全校で共有していく。				
		満足度指標 お子様は、ご家庭や地域で、自分からあいさつをしていますか。	保護者アンケートによる肯定的割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	保護者	保護者⑥	54.2	86.8									
		努力指標 学校や家庭や地域で「あいさつ」をしていますか。	児童アンケートによる肯定的割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	児童	児童⑫	79.6	97.3									
3	いじめ、不登校、問題行動等の未然防止・早期対応	⑧道徳教育 道徳教育の充実 ◇道徳授業の改善	道徳的实践力を身に付けるために道徳の授業を充実していく必要がある。	努力指標 考え、議論する道徳授業に向け、中心発問を吟味しているか。	教師アンケートによる肯定的割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	教師	教師⑫	18.8	93.8	昨年度とほぼ同じ結果である。	A	・週案に中心発問を位置づけることを職員で共通して取り組む。 ・授業のポイントやICTの効果的な活用方法について会議で提案することで共通理解し、授業後半の充実を意識する。 ・発問を意識して授業に取り組み、通信を発行し家庭や地域との連携を図る。				
		⑨特別支援教育 特別支援教育の充実★ ◇共通理解と対応 ◇保護者・外部機関との連携	特別支援教育の理解と児童のニーズに合った対応が必要である。	努力指標 支援を必要とする児童のニーズを共通理解し、全職員で対応しているか。	教師アンケートによる肯定的割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	教師	教師⑬	42.9	90.5					A評価は13%、肯定的評価は5%上昇している。	A	児童理解の会を通して、支援が必要な児童への対応について共通理解を継続している。 また、校内研修により特別支援への理解や指導方法を深めている。
		⑩生徒指導3機能 生徒指導3機能を生かした指導★ ◇一人一人を大切にする学級経営 ◇自己肯定感を高める活動の推進(いいとこ見つけ)	児童一人一人のよさを引き出し、よりよい人間関係を構築し、自己肯定感を高める必要がある。	努力指標 児童の思いに寄り添う指導を心がけているか。	教師アンケートによる肯定的割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	教師	教師⑭	65	100							
⑪いじめ対策 いじめの未然防止早期対応★ ◇いじめに関する認識と情報収集(いじめアンケート、個人面談) ◇いじめ対策チームの機能化	一人一人の児童を確実に把握し、更にきめ細かな支援が必要である。	努力指標 日頃から児童の変化を見取り適切に対応しているか。	教師アンケートによる肯定的割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	教師	教師⑮	45	100	教師・保護者のA評価、肯定的評価が昨年度よりも上昇した。児童のいじめに対するA評価が100%にならない。	A	・今後もなかよしチェックアンケートを実施し、児童の見取りやいじめの未然防止に努める。 ・学校でのアンケート結果のお知らせやいじめ未然防止のための取組を生徒指導通信などで家庭に連絡することで、学校と家庭が連携して児童の様子を見守っていけるようにする。						
		満足度指標 学校における、いじめの未然防止や早期発見のための取組が伝わってきますか。(市共通保⑦)	保護者アンケートによる肯定的割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	保護者	保護者⑨	29.6	85.1									
		成果指標 いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか。(市共通児⑦)	児童アンケートによる肯定的割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	児童	児童⑭	92	98.7									
		成果指標 いじめ対策チームが迅速かつ組織的に機能しているか。	教師アンケートによる肯定的割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	教師	教師⑯	65	95									
⑫不登校対策 不登校等への対応★ ◇共通理解 ◇カウンセリングマインド	児童の困り感に寄り添う姿勢をより一層心掛ける必要がある。	努力指標 日頃から友達関係に目を配り、トラブル等の未然防止、早期対応に努めているか。	教師アンケートによる肯定的割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	教師	教師⑰	50	100	児童・保護者のA評価が昨年度より若干下がった。教師の肯定的評価が100%、A評価は10～15%上がっている。	A	児童理解の会で名前が出た児童やアンケートなどの結果を共有し、学校が楽しくないと思っている児童に寄り添う声かけを行い、組織的に対応していく。						
		努力指標 保護者への連絡を密にし、誠実に対応しているか。	教師アンケートによる肯定的割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	教師	教師⑱	47.4	100									
		満足度指標 お子様は、学校へ行くのが楽しいと言っていますか。(市共通保①)	保護者アンケートによる肯定的割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	保護者	保護者①	58.5	91									
		満足度指標 学校へ行くのは楽しいですか。(市共通児①)	児童アンケートによる肯定的割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	児童	児童①	61.2	94.3									

4	家庭・地域との連携	⑬ 学習習慣・生活習慣	学習習慣、生活習慣の定着 ◇家庭学習の習慣化 ◇基本的生活習慣の定着 ◇メディア利用の自制	児童の学習習慣を確立すると共に、生活習慣を整える必要がある。	成果指標	学年に応じた家庭学習の時間(学年×10分)が定着しているか。	教師アンケートによる肯定的割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	教師	教師⑱	23.5	94.1	児童の「計画を立てて学習」の項目が昨年度よりもA評価が20%、肯定的評価が10%上がっている。10時までには寝ていない児童は昨年度と同程度の40%、ゲーム・ネット使用時間3時間以上の児童は11% (45人)いる。	C	・「自分で計画を立てて学習する」とはどのようなことなのかを児童と共有し、家庭学習週間の前に一緒に計画を立てるようにする。また、取り組み後には振り返りの機会を設け、計画的にできたという実感や次のためてを持たせるようにし、定着を図っていく。 ・学校でのアンケート結果を生徒指導通信に載せたり、家庭学習と合わせてメディアコントロールに取り組んだりして、学校で行っている対策が保護者と共有できるようにしていく。
					満足度指標	お子様は、自分で計画を立てて勉強していますか。(市共通保④)	保護者アンケートによる肯定的割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	保護者	保護者④	25.4	67.9			
					成果指標	自分で計画を立てて勉強していますか。(市共通児④)	児童アンケートによる肯定的割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	児童	児童⑮	42.5	76.8			
					成果指標	いつも何時頃寝ていますか。	10時までには寝る割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	児童	児童⑳	10時まで 59.5	10時30分まで 85.6			
					成果指標	お子様は1日(平日)に平均してどのくらいメール・ネット(ライン・ゲーム・動画・インスタグラム・フェイスブック・ツイッターなど)をしていますか。(市共通保⑤)	2時間未満の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	保護者	保護者⑭	1時間未満 33.6	2時間未満 75.6			
		⑬ 生活習慣	学習習慣、生活習慣の定着 ◇基本的生活習慣の定着 ◇メディア利用の自制	児童の生活習慣を整える必要がある。	成果指標	1日(平日)に平均してどのくらいメール・ネット(ライン・ゲーム・動画・インスタグラム・フェイスブック・ツイッターなど)をしていますか。(市共通児⑤)	2時間未満の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	児童	児童㉑	1時間未満 44	2時間未満 75.8			
⑭ 地域連携	コミュニティ・スクールの充実 ◇外部講師・地域人材の活用 ◇歴史、自然、文化、人の教材化	地域社会に関心をもち、地域についての理解や愛着を深めることが必要である。	努力指標	地域の資源(人、自然、文化、歴史)を活用した活動や授業を行っているか。	教師アンケートによる肯定的割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	教師	教師㉒	50	100	肯定的評価は100%。資源活用 of A評価が20%上がったが、地域連携のA評価が8%下がった。	A	・創立150周年を迎える今年は、地域とのつながりをより意識した教育課程を組み、どの学年も地域に出かけ地域に学び、児童自身が主体的に地域に対してできることを考えて学習しているところである。 ・挨拶については、昨年度、来校者に対してあまり積極的にできなかったが、今年度は地域からお褒めの電話をいただくこともあり、児童にフィードバックすることで、より意識が高まっている。		
			成果指標	挨拶、通学の安全等の取組において地域と連携できているか。	教師アンケートによる肯定的割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	教師	教師㉓	35	100					
5	教職員の働き方改革	⑮ 業務改善	行事、会議、業務等の精選・改善 ◇効率化に向けた改善	行事の精選、会議の効率化になお一層努める必要がある。	努力指標	それぞれの学年や、校務分掌において、精選・効率化に向けて提案を行っているか。	教師アンケートによる肯定的割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	教師	教師㉔	19	95.2	昨年度に比べ効率化のA評価、肯定的評価が15%上がった。支援員活用 of A評価が10%、肯定的評価が15%上がった。	A	・教職員の放課後の業務時間を生み出すため、日課を変更し(掃除後の10分間のぐんぐんタイムを無くした)、児童の下校時刻を10分早めた。 ・ICTやICT支援員を活用した業務改善を行ったり、学校保護者間連絡システム(コードモン)を活用して配付物をデジタル配信したりすることができた。しかし、いろいろな行事や研修が再開された他、業務が一定の職員に偏り、業務の平準化が難しい。
					努力指標	学校コーディネーターや業務支援員を活用して多忙化改善に努めているか。	教師アンケートによる肯定的割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	教師	教師㉕	50	95			
		⑯ 意識改革	意識改革 ◇日々の勤務における意識化	教職員個々が意識的に取り組む必要がある。	成果指標	定時退校日(水曜日)、退校時刻の上限(19時30分)の取組を守っているか。	教師アンケートによる肯定的割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	教師	教師㉖	28.6	71.5	A評価が昨年度より5%上がった。	C	今年度は、教諭4名が異動したにも関わらず、教諭2名と常勤講師1名の配置となり、級外が1名減となった。そのため各教員の持ち時数が増加し、それに伴う教材研究の時間も増加したことで、平均残業時間が約5時間増加している。退校日や退校時刻を意識し、仕事を持ち帰っている職員もいる。コロナ前に全てを戻すのではなく、児童にとって大事なものは何かを考え、業務を精選していく必要がある。

<評価者> 1 保護者の評価(保護者→学校・児童・保護者) 2 児童の評価(児童→児童・教師) 3 教師の教育活動評価(教師→学校)

<判定基準> 児童・保護者・教師の3者評価の肯定的A+B評価の割合が、90%以上がA、80%以上がB、70%以上がC、70%未満がD (A+B評価が90%未満の場合及びA評価の推移を重視して、取組の改善を行う。)